



かながわ気候市民会議 in 逗子・葉山 の活動報告

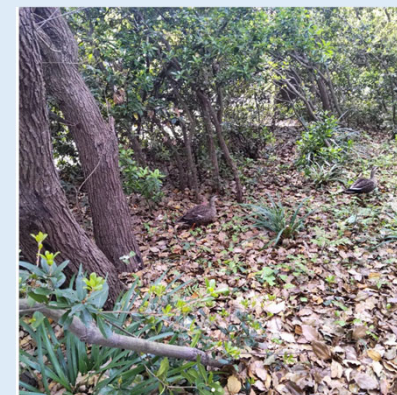
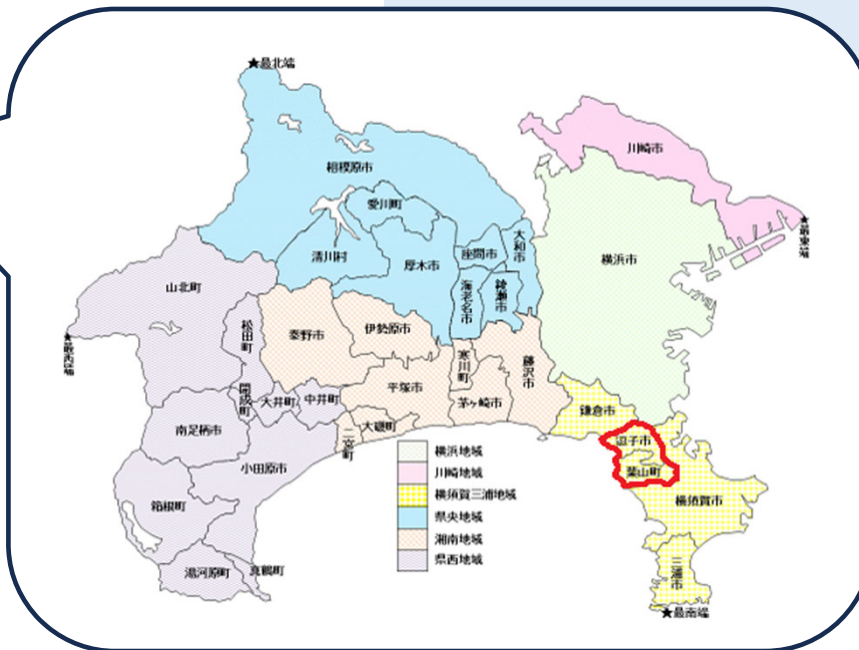
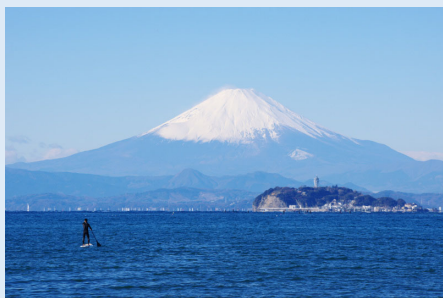
2024年3月14日

かながわ気候市民会議in逗子・葉山運営委員会







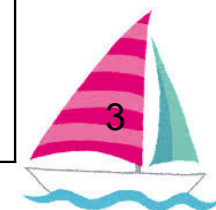
逗子市 & 葉山町について





	人口	面積	特色
逗子市 	55,937	17.3 km ² 耕地 6 ha 森林 898 ha	<ul style="list-style-type: none">2023年度中に「地球温暖化対策計画(地域編)」を策定する方針公共交通機関: 鉄道: 4駅、バスベッドタウンとして発展産業: 観光(逗子海岸、長柄桜山古墳群(ながえさくらやまこふんぐん)、まんだら堂やぐら群)
葉山町 	32,233	17.0 km ² 耕地 32 ha 森林 876 ha	<ul style="list-style-type: none">2024年度中に「地球温暖化対策計画(地域編)」を策定する方針公共交通機関: バス日本ヨット発祥の地葉山御用邸「保養の町」産業: 観光、農業(シイタケ)、畜産業(葉山牛)、水産業

(人口は令和6年2月1日現在)





かながわ気候市民会議 in 逗子・葉山の特徴

- 隣接する2つの地域を対象
- 逗子市・葉山町の実行計画策定に際し、市民意見を届ける
- 運営委員会を設置し、公平・公正な運営
(神奈川県:市民会議の企画・運営を委託→市民対話手法のプログラムを開発し県内に普及させる)
- 地球環境戦略研究機関(IGES)のプログラムを市民の気づきの手段として採用 →「1.5°Cライフスタイルチャレンジ」の実践
(環境政策対話研究所がIGES地元の葉山・逗子に提案し実現)
- 住民基本台帳から無作為抽出によって選ばれた3,300名に参加を呼びかけ(逗子市・葉山町の協力)→最終的に46名の参加者





市民会議の進め方

- ① 気候変動や脱炭素社会づくりに関する基礎情報の提供による参加者間の情報基盤の形成
- ② 参加者の自分事化、参加者間での問題意識の共有
- ③ 重点をおいて議論すべきテーマ(分野又は課題)の絞り込み
- ④ 絞り込んだテーマについての深掘りの議論・対話(テーマ討議)
- ⑤ 対話の結果の集約、提案項目に対する参加者による投票、市民提案の作成

- 全体ファシリテーター、グループファシリテーターを配置(1グループは5、6人で構成)
- 専門家による包括的な情報提供のほか、「移動」(京浜急行電鉄)、「住まいとエネルギー」(中田製作所、IGES)、「製品」(Loop Japan、エアクローゼット)、「食」(フードバンクかながわ、カマン)など各分野の実務者による具体的な情報提供
- 開催は土曜日の午後を基本(7月～12月、計5回の開催)





市民会議のプロセス

第1回
7月8日

- ・オリエンテーション
- ・気候変動と脱炭素の学習
- ・初顔合わせ

第2回
8月5日

- ・暮らしと温暖化の関係学習
- ・脱炭素アクションの検討

8月中
(2週間)

- ・市民による「脱炭素ライフスタイルチャレンジ」の実践

第3回
9月23日

- ・チャレンジして考えたことの共有
- ・議論したいテーマ・課題の絞り込み

第4回
10月28日

- ・テーマ別グループ討議
- ・テーマごとに取組や提案を検討

第5回
12月2日

- ・市民提案(案)のさらなる検討
- ・提案に対する意思表示(投票)

12月15日(金)
18日(月)

葉山町長 に提案書を提出
逗子市長 に提案書を提出 & 記者発表

逗子市と葉山町の政策形成に生かしてもらおうとともに、市民社会に公表し、地域の取組みや協働のきっかけとする

2月12日(月)
2月14日(水)

「ふりかえり会合」を開催
→ フォローアップ活動への参加の呼びかけ





市民会議の設計①

第1回
7月8日

- ・オリエンテーション
- ・初顔合わせ
- ・気候変動と脱炭素の学習

■ 専門家によるレクチャーと質疑応答

- ・ 「気候変動の現実と脱炭素の必要性」
- ・ 「どのように脱炭素社会をつくるのか？」
- ・ 「逗子・葉山地域に関する基礎情報」
- ・ 「逗子・葉山町の温暖化対策の現状」

■ 目標

- ・ 逗子・葉山における気候市民会議の目的と進め方について共有する
- ・ 参加者同士が知り合うとともに、話し合いの場に慣れる
- ・ 脱炭素を考える上での基礎となる情報を理解する
- ・ 逗子市・葉山町の概要を知る





市民会議の設計②

第2回
8月5日

- ・暮らしと温暖化の関係学習
- ・脱炭素アクションの検討

■ IGESによる情報提供

- ・ 「1.5°Cライフスタイルプログラム」の紹介

■ 目標

- ・ 脱炭素と市民の暮らしの関係を考える
- ・ 家庭における脱炭素行動を知る
- ・ どの脱炭素に挑戦するか考える
→ 2週間、家庭でチャレンジする脱炭素行動を選択





市民会議の設計③

- 8/6- 8/19
チャレンジする脱炭素行動
5分野57メニューの中から
選択(34名)
- 8/12-9/3
任意の2週間で
脱炭素行動の実践
- 9/3まで
参加市民はアンケート形式
で脱炭素行動の結果を
IGESに報告(32名)

8月中
(2週間)

・市民による
「脱炭素ライ
フスタイルチ
ャレンジ」の
実践



具体的なライフスタイルチャレンジの例

- 自動車での移動を効率的に
 - ・ ライドシェアリング
 - ・ エコドライブを行う
- 低炭素型の移動手段を使う
 - ・ 通勤・通学を公共交通機関・自転車で
- エネルギーを節約する
 - ・ 自宅の窓を二重窓に
- 食事のバランスを見直す
 - ・ 地元で採れた野菜や果物を食べる

IGESにおいて市民による脱炭素行動の結果を集約・分析





市民会議の設計④

■ 「脱炭素ライフスタイルチャレンジの振り返り」

■ 目標

- 脱炭素行動の経験と感想を共有（よかったこと、難しかったこと）
- 地域の皆さんに勧めたい行動、必要なサポート
- 第4回会議で深く議論したいテーマを絞り込み

第3回
9月23日

- チャレンジして考えたことの共有
- 議論したいテーマ・課題の絞り込み



議論に加わってみたいテーマについてアンケート
→ グループ分け

① 移動 ② 住まいとエネルギー ③ 食の生産と消費 ④ 製品・ごみ・シェアリング





市民会議の設計⑤

■ 2つのルームに分かれての分科会形式でのグループ討議

- 分科会 1 「食」と「移動」
 - 分科会 2 「製品」と「住まいとエネルギー」
- 4 テーマごとに、専門家・実務者による情報提供・問題提起

■ 目標

- 逗子・葉山が脱炭素で住みよい地域になるために、議論するテーマごとに、求められる市民の取組みや地域社会（企業者NPO、地域団体等）の取組み、それらを推進する市・町の施策などの要素が得られている。

第4回
10月28日

- テーマ別グループ討議
- テーマごとに取組や提案を検討

(午前・午後実施)



得られた提案内容を整理し、「提案素案」を作成

市民の議論がきちんと反映されているか参加者有志4名でドラフトをチェック





市民会議の設計⑥

■市民提案（素案）について最終検討

- 4つのテーマごとにグループ討議と全体討議
- 4つのテーマ以外のテーマや横断的な課題についての討議

■目標

- 脱炭素で住みよい逗子・葉山をつくるための提案がほぼ完成（修正の方向性が決まっている）

第5回終了後：

- 12/7：市民提案最終案を参加市民に送付。102の提案項目に対し、7段階の支持度合いによる投票を実施。
- 12/14：35名の投票結果を踏まえ、94の提案項目からなる「市民提案」を完成

第5回
12月2日

- 市民提案（案）のさらなる検討
- 提案に対する意思表示（投票）

両自治体の長に対して「市民提案」を手交（葉山町長：12月15日、逗子市長：12月18日）、神奈川県県政記者クラブにて発表（12月9日）





市民提案最終案の投票について

- 第5回会議の終了後、市民提案最終案102件に対して、自分がどれくらいその提案を支持しているかを意思表示する投票を実施（評価スケールは「7. 推進すべき～1. 推進すべきでない」の7段階）
- 投票の結果、肯定的回答が過半数を超えたものを「提案」として提示。ただし、過半数に満たなかった提案についても参考として紹介。

投票結果の例 推進すべき ■7 ■6 ■5 ■4 ■3 ■2 ■1 推進すべきでない



- 過半数に満たなかった提案の例
 - ・ 朝夕は自動車の駅への乗入れを制限するなど、
自家用車に対する何らかの規制を導入する
 - ・ 市・町は夏時間（サマータイム）制度を導入する
- } 本質的な課題を示唆





移動

- 誰にでも利用可能な公共交通ネットワークを整備する
- コミュニティバス・乗り合いタクシー等を整備する
- 徒歩や自転車等で安全に移動できる環境を整備する

住まいとエネルギー

- 再エネの地域内での活用を進める
- 高断熱住宅を普及・促進する
- コミュニティスペースの共同利用を進める

製品

- 脱炭素や環境に配慮した消費のあり方を普及する
- 脱炭素に取り組んでいるお店や商品を増やし、見える化する
- リユース容器、マイカップなどを推進する

食

- 地元の持続可能な農産物・海産物の消費を活性化する
- 生ごみのたい肥化を促進する
- 脱炭素の食品を選びやすくする

横断的テーマ、その他

- 海の森・山の森(ブルーカーボン・グリーンカーボン)を増やす
- 市民提案のフォローアップ活動を行う

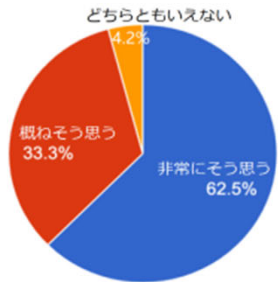




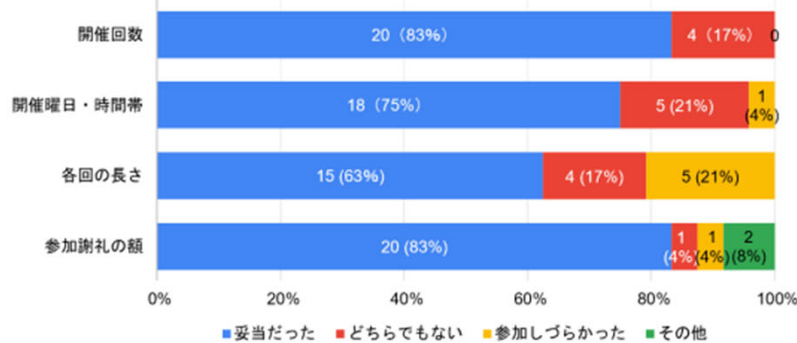
事後アンケートの実施

実施期間: 2023年12月27日 ~ 2024年1月21日(再依頼による延長期間を含む)
 実施方式: Google フォームによる入力を基本とし、一部郵送による紙面調査を併用
 実施対象者: 市民会議に最後まで参加いただいた39名に対して配信
 回答者数: 24名(回答率61.5%)

【参加してよかったか】



【開催について】



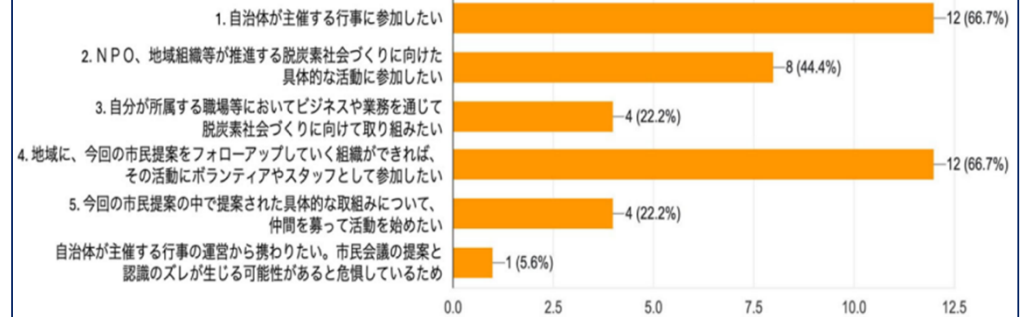
「脱炭素ライフスタイルチャレンジ」について

- 「脱炭素行動の実現のためには解決しなければならない課題があることについての気づきがあった」(88%)
- 「この実践を通して 感じたり考えたりしたことが市民提案の話し合いで生かされた」(79%)

市民提案で提案した取組みの具体化に向けた活動に参加してみたいと思いませんか？

参加してみたい: 16名/24名(67%)

【どんな活動に参加したいか】





「かながわ気候市民会議in逗子・葉山ふりかえり会合」

2月12日（逗子市役所）、2月14日（オンライン）開催

1. 市民提案作成後の動きについての報告
2. 「事後アンケート」の結果を踏まえた市民会議のふりかえり
3. 逗子及び葉山町における地球温暖化対策の推進方策（逗子市・葉山町からの報告・説明）
4. 市民提案を実現していくための取組み等について（意見交換）



- 市民提案のフォローアップ活動への参加を呼びかけ
 - 取組みや活動の方向について意見交換を重ね、その活動方向を共有するとともに、チームの名称や代表者（幹事役）の決定
 - フォローアップ活動の体制が整うまで、環境政策対話研究所がサポート

